

子ども図書館で本をさがしてみよう



図書館では、本をさがしやすくするために並べ方のルールがあります。図書館で本をさがすときのコツをつかんで、自分で読みたい本を見つけてみましょう。

1. ラベルでさがしてみよう

本の背表紙の下には、ラベルがはられています。これは「請求記号」といって、本が置かれている場所をあらわす住所のようなものです。子ども図書館では2段のラベルをはっています。

ラベルに表示されている記号（数字やカタカナなど）には次のような意味があります。



分類番号（1段目）

本の内容によって分類されています。日本十進分類法（NDC）というルールにしたがって、0類から9類までの順番で分類されています。

図書記号（2段目）

本を書いた人の名字の頭文字をカタカナ一文字で表記しています。アイウエオ順で並んでいます。

しかし、すべての本に付いているわけではありません。文学の読みものには書いた人の頭文字、絵本は絵をかいた人の頭文字、歴史の伝記は登場人物の頭文字が記入されています。

子ども図書館の本は、分類番号の前に「J」という記号がついています。

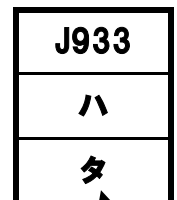
子ども図書館内にある検索機で「請求票」を出すと、ラベルの記号が表示されます。ここでは3段目まで表示されています。3段目は「巻冊記号」といって、本が何冊かに分かれているときに巻数をつけたりします。

子ども図書館では、3段目に表記があるときは、おもに次のようなときです。

「タ」・・・大きいサイズの本。ラベルの上に青いシールをはっています。

「チ」・・・ちしきの絵本。ラベルの上に緑色シールをはっています。

「震災」・・・東日本大震災の児童書。ラベルの下に赤色の丸シールをはっています。



（3段目）

「参考書」シールがはっている本は借りることができない本なので、図書館の中だけで読むことができます。分類番号の前に「JR」という記号がついている本です。

2. 分類番号でさがしてみよう

分類番号には、日本十進分類法（NDC）が使われています。これは本の内容によって、0類から9類まで10個のグループに分けて配置してさがしやすくするための方法で、日本のほとんどの図書館で使われています。子ども図書室は、3けたの分類番号（1段目）を使って本をならべています。

0類 総記 百科事典、図書館やインターネットに関する本のグループ。	1類 哲学・宗教 心の問題や考え方に関する本、さまざまな宗教に関する本のグループ。	2類 歴史地理 日本や世界の歴史、地理に関する本、歴史上の人物の伝記などのグループ。
3類 社会科学 職業やボランティア、政治や経済に関する本、地域生活や祭りなどの行事や妖怪に関する本のグループ。	4類 自然科学 算数の本や、地球や天気、星座、動物や植物などの理科に関する本のグループ。	5類 技術工業 環境問題や建物、自動車、ロボットなどの機械、工場や料理に関する本のグループ。
6類 産業 農業や園芸、水産業や電車などの交通、通信など産業に関する本のグループ。	7類 芸術スポーツ 音楽や絵画、おりがみや工作の本、体育やレクリエーションに関する本のグループ。	8類 言語 ことわざや四字熟語のことばに関する本、作文の書き方に関する本のグループ。
9類 文学 日本や海外の小説、文学全集、詩集、俳句、日記などのグループ。	10個のグループに分類しているほかに、子ども図書室では絵本にも分類番号をつけています。 日本の絵本・・・「EH」 外国の絵本・・・「E」 また絵本以外の分類番号の前には、子ども図書室の本であることをしめす「J」の記号がついています。	

3. 本棚からさがしてみよう

同じグループの本は棚の左から右へ、上から下へ分類番号の数字の順に並んでいます。棚の右下までいったら、次は右どりの棚の左上につづきます。

〔J913〕（日本の読みもの）や〔J933〕（外国の読みもの）などは、書いた人の名前の順（2段目の図書記号）にならんでいます。



しらべ方がわからない場合は、子ども図書室カウンターに聞いてください。

みやぎけんとしょかん かいこ としょつ であ 電話 022-377-8447
宮城県図書館2階子ども図書室